



9
 2011

主題 (2011/2012)

国際会長 Audere est Facere - To dare is todo
 「とにかくやろう-成せばなる」
アジア会長 Audere est Facere - To dare is todo Mission with Faith
 「とにかくやろう-成せばなる」 「信念をもって使命をはたそう」
西日本区理事 Contribute to the Community through Active Services with Love
 「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」
中西部長 「であいで愛」
大阪クラブ会長 There is no time like the present: One for all, all for one
 「一期一会：ひとりひとりを大切に」

会長 牟 大 盛
 直前会長 脇 本 博
 副会長 森 嶋 弘 明
 清水 汎
 豊 島 正 利
 書記 尾 和 信 孝
 会計 北 村 知 三
 プリテン 松 原 伸 幸
 連絡主事 田 尻 忠 邦

【今月の聖句】

「あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いて下さる。」

マタイによる福音書 6章6節

【9月例会プログラム】(メネット強調月間)

とき：2011年9月13日(火) 18:15~20:15

ところ：大阪土佐堀YMCA 9階

司会 崔 金順メネット会長
牟 大盛会長

1. 開会の鐘
2. クラブソング
3. ゲスト・メネット紹介
4. 会長報告
5. 「日々の糧」斉唱・晚餐
6. HH国内キャンプ報告会
7. 誕生日・結婚記念日のお祝い・ニコニコ
8. インフォメーション
9. YMCAニュース
10. 閉会の鐘

受 付：森嶋・牟・北村メネット

牟 大盛会長



於：HH国内キャンプ



パサデナ交換留学生のニコラス君
(田尻ファミリーとともに)

【第2例会のご案内】

とき：2011年9月20日(火) 19:00~20:30

ところ：大阪土佐堀YMCA 6階 603号室

(変更になることがありますので、ご注意ください。)

今月の誕生日：牟大盛（１）尾和信孝（１０）

メネットさんお誕生日：清水佐智子（１０）北村信子（１１）

ご結婚記念日：該当者なし

【聖句に寄せて】

宇野 義男

この言葉はイエスが私達に「祈る姿勢」とも言えるものを教えられたものです。私達は日頃、接する人の目と耳を気にして、静かに自分の心に生きることの難しい時代に生きています。自分の将来のことにしても、とかくすると、自分自身の声ではなく、他人の声や、時代の声が先に入り、私達を支配しそうになります。今、私は後期高齢者で、残り少ない人生ですが、「他人の視線ではなく神の視線の中に身を置きたい」と願っております。

【８月出席状況】

8月出席状況		在籍	例会出席	アメ ツイ ブク	メ ネ ット	ゲ ス ト	ビ ジ ター	出席率	二献 コ金 ニ コ
	正会員	13	7		3	11	3	85.0%	25,300円
	功労広義会員	5	1						
	合計	18	8		3	11	3		

8月例会の出席者

メネット：崔金順メネット会長、北村信子、脇本真知子メネット

ビジター：新保正秋、新保益代（センテニアル）、鈴木良洋（サウス）

ゲスト：宮野孝雄、宮野洋子（脇本友人）、西村智恵、西村佳恵、桜木貴博、高土雄輔、
吉田亜衣（OB&OG）、立山英展（YMCA）、田尻悠紀コメット、田尻大樹コメット、
脇本謙コメット

【8月BF報告】

BF 尾和 信孝

- ・新切手 清水（汎）
- ・古切手 清水（汎）
- ・リストコイン 清水（汎） 合計 344円

【訃報】

会長 牟 大盛

8月16日、大阪YMCA統括本部から遊上義一先輩の訃報が届きました。ご逝去は、8月11日（木）で、YMCAへの訃報は 盆休みの8月12日だったとの事で、盆休み明けの本日に訃報をお知らせする結果となったとの事です。（統括本部 担当 北野さんに確認）

お通夜は、8月13日（土）、告別式は8月14日（日）にすでに執り行われました。

尚、大阪クラブとしましては、ご遺族のご長男であります、遊上真一氏と偲ぶ会などについて協議したく存じます。ご遺族ご家族の上に、神様のお慰めがあらんことをお祈りいたします。

【クラブ役員会報告】報告者：書記 脇本 博

日時：2011年8月18日(火) 18:30~19:00

場所：徐園

出席者：牟大盛会長、北村知三、田尻忠邦、森嶋弘明、脇本 博、田尻メネット、脇本メネット、
田尻大樹コメット、ニコラス君

協議事項

1. 9月例会プログラム(HHキャンプ報告)、10月例会プログラム(大阪センテニアルクラブ直前会長、新保正秋さん)について協議した。
2. 納涼例会の赤字分はニコニコから補填する。
3. 田尻忠邦連絡主事より、国内HHキャンプの報告があった。牟大盛会長からボランティアとして参加してくれたOB、OG達の参加費は基金より拠出する旨の提案があり、全員了承した。
9月第2例会は、18:30-19:00役員会、19:00-20:30HHキャンプの総括報告と課題検討会とする。
4. EMC活動の一環として、正会員になるのは難しいが、大阪クラブの奉仕事業に関心を持ち、大阪クラブを応援してくれる人達を部友、協賛会員、賛助会員(仮称)として受け入れる制度を作ってはどうか?対象はOB、OG、手話通訳者、退会者等、会費無料、例会時はビジター待遇。という提案が牟大盛から出された。検討課題とし、会則等を松原メンに検討して頂くことを依頼する事になった。
5. 中西部会、阪和部会、京都部会、出席者が少ないので、会員にアピールする。
6. 故遊上 義一さん(8月11日物故)を偲ぶ会を開催することについてご遺族の了解を取る。
ご遺族との連絡は会長に一任することとなった。

【8月例会報告】

清水 汎

8月納涼例会が8月9日(火)大阪天満橋 大阪キャッスルホテルで行われた。会員はメン8名、メネット2名、コネット3名の少数であったが、他クラブから鈴木良洋(サウス)、新保夫妻(セントラル)、YMCA、HHキャンプ等で24名の参加者があり、納涼会らしい賑やかな楽しい会になったことで安心しました。

今回のメインゲストは、何といても パサデナクラブから来られたニコラス君とマジックショウの鈴木良洋メンであった。

ニコラス君は、20歳の白人好青年、ミネソタ大学で会計学を学び、野球、サッカー等の好きなスポーツ青年、日本では、寺院、古い建築物を見学したい由であった。クラブからプレゼントとして会員の皆さんにペーパーナイフを持参されました。

鈴木メンのマジックは、プロのように上手で感心いたしました。サウスクラブの故横井先輩メンが残されたマジッククラブがこのようなかたちで継いで行かれることの大切さを身に沁みました。

参加者が少なく如何に安い経費で楽しい会を成功させるか、キャビネットの皆さんの苦心が良くわかります。クラブ事業は継続で継いで行くのですが、これは経験しないと良く判らないと思います。ワイズ活動の事業は、活発さを求められていますが、それを継続していくには、若さと体力を求められています。今のキャビネットは優秀な人材が揃っていますが、その他の人の援護、応援が、少なく如何に多くの人を集め、他クラブとの交流を深め、相互に行き来を増やすことが大切であり、そのような人材を育てることも、事業の一つです。

人間の組織は、目標と目的が明確で、人の心を動かす情が必要と思います、Y M C Aにもワイズ運動に対し、現在自己の存在にエネルギーを使い、目標に不明確な面もあり、社会の人が共鳴する何か持たないと会員の増強は困難と思います。活発な運動を継続するには、会員が情熱を失わない何かを常に気を配ることが重要と思います。

この会では、ニコラス君の人柄、若さ、脇本コメット、田尻両コメットの若さと情熱を感じました。また鈴木メンのマジックへの情熱、その真剣なマジック精神に心を打たれました。大阪ワイズメンクラブがこのような容で継続して発展していくのを心から祈っています。

8月納涼例会 収支報告

会計 尾和信孝

	収 入	支 出	差 引
会費	61,000		
	(注 1)		
飲物券(14枚)	14,000		
出演者謝礼		10,000	
宴会費(キャッスルホテル)		120,000	
		(注 2)	
合 計	75,000	130,000	55,000

(注 1) 11名 @5,000 3名 @3,000 10名(招待)

(注 2) 24 × @5000

【聴覚障害(HH)国内キャンプ報告】

会長 牟 大盛

大阪クラブは、1998年の創立70周年記念事業としてY M C Aとの協働事業として、聴覚障がい(HH = Hard of Hearing)国際キャンプを支援して参りました。しかし、2年に一度のアジア諸国を巡回するこの国際キャンプは、時としてあらゆる国際状況や情勢により過去何回と無く順延されました。一回の中止で3 - 4年目に開催となり、この間準備したり、参加を希望していた学生(高校生以上のキャンパー)の熱意が冷めたり、卒業などで次回のキャンプまで繋がらないなどの不都合が散見されました。

このような、事態を打開し、なんとか国際キャンプに参加するキャンパーを育成すべく、国内HHキャンプを開催することを前提に、HH国際キャンプOBORG(6 - 7名が常時参加)を招いて、昨年計6回の拡大聴覚障がい委員会を開催して参りました。

ところが、今年の3月11日に東北関東大震災が起こり、日本全体の各種行事が中止や自粛に追いやられる中、大阪クラブが推進して参りました国内HHキャンプも中止かと懸念される状況となりました。

そのような中、脇本博直前会長の苦悩をキャッチしたHHOBORGのメンバーの中から、ぜひとも後輩の育成のためこの国内HHキャンプ事業を進めていただきたいとの篤い要望がありました。このOBORGのご意見に力を得た大阪クラブ面々は、田尻忠邦連絡主事を窓口早速、大阪Y M C Aとの協議に入りました。

時を同じくして、大阪クラブの会員であられ、大阪Y M C Aの総主事の末岡祥弘メンから、大阪Y M C Aとしても東北震災被災地への支援の一環としてHH国内キャンプを位置づけたいとの貴重なご意見がありました。また、聾学校の教職に就かれて参られました大阪センテニアルクラブの新保正秋直前会長のご尽力もありまして、宮城・仙台などの聾支援学校はじめ、大阪府内の聾学校、同支援学校に直接呼びかけることができました。このため、ご足労いただきました新保殿、大阪Y M C Aの立山さん、そして大阪クラブの脇本直前会長、田尻連絡主事本当にご苦労様でした。

当初、20名前後のキャンパーを予定していましたが、上記の経緯で夏休み直前の募集呼びかけとなり、

また、東北方面には多方面からの支援プログラムが重なっていた関係で、東北宮城からは2名、関西からは5名計7名のキャンパーが集まりました。また、皆様すでに社会人であられますHHキャンプOB OG 6名と手話通訳として伊田さんと、條メンの二人が奉仕されました。

また、全体の大阪YMCA統括からは立山英展さんが、大阪クラブからは田尻忠邦連絡主事が統括リーダーとしてご奉仕されました。

また、大阪クラブからは、脇本直前会長ご夫婦、北村知三メン、牟が泊りがけで応援参加いたしました。勿論、田尻家からはパサデナクラブからの交換ホームステイ者のNicholas Held君もある種飛び入り参加してもらいました。

このように、多種多様な人々のキャンパーは、1台のバスで8月13日早朝に土佐堀YMCA前をまず、神戸市内の「阪神淡路大震災記念・人と防災未来館」に向かって出発しました。

東北からのキャンパーもあり、当初懸念されましたが特別なことも無く六甲YMCAに到着しました。ただ、「未来館」での上映内容があらゆる場面を変えながらの震災直前から震災までの画面を繰り返し流した内容でしたので、未来館の記憶では地震の恐ろしさが主に記憶として残ったのは私だけでなかったように思われます。

六甲Yでは、早速チェックインのあとランチタイムです。六甲Yでは、基本的にセルフサービスとなっており、リーダーたちはキャンパーの学生達が自主的に全員の食事の配膳をするように指導しておられ、このシステムは最後の食事まで一貫していました。

食後のあと、中ノ島を囲んだ池で各班に分かれてのカヌー実習の時間です。基本的に池を2周することとなり、皆始めてのカヌーで右になり左になりしながら何とか全艇帰還しました。1位は湖が数多くあるミネソタ州に在住のニコラス君チームでした。また、この写真と記事が翌日の読売朝刊に記載されました。その後、研修場全体を回るオリエーターリングです。これはゲーム感覚で各男女チームが分かれて行うのですが、チームワークを培う段階といえるでしょう。

夕食の後、多目的室にて皆一同に集まり今回のキャンプへの思いや希望、夢などを話し合いました。中でも女子高校生のキャンパーは、普通高全校で自分ひとりが聾啞者であり、同級生や先生とのコミュニケーションに苦慮して来て、「なんで私だけが聾であるのか、自分を受け入れることができなかつたため、このHHキャンプに来ました。同じ聾の仲間と出会うことにより、少しは自分を受け入れることができるようになります。」との告白が一番印象的でした。皆、初日でもあり積極的な意見があまり無く、その代わり皆の思いを大きな一枚の紙に書くこととなりました。

キャンパー全員が躊躇しているその時に、なんとニコラス君が一番にマジックをにぎり英語でモットーを書き始めました。このことで、全員の心がひとつとなったように感じました。その後は、みんな好きな言葉、夢、目標などを自由に絵も交えながら書き入れました。この、大紙は翌日まで壁に掛けていました。

翌日は、早朝に男子班のリードで体操が始まりました。リーダーは宮城県からのキャンパーです。かれは、砲丸投げの選手でして、選手の準備体操そのまま指導受けました。また続いて、ニコラス君もアイスホッケーチームが行う大変ハードな体操を披露しました。みな、へとへとでした。

朝食のあとは、本格的な男女チーム対抗での各種野外競技が展開しました。男性チームが一人足りない関係で、我が大阪クラブの面々が交代で参加しましたが、気持ちはありますが若者にはなかなか付いていけず、やはりへとへととなりました。運動ゲームは、新聞千切り、玉運び、ぐるぐるゲーム、大筒(穴あき)水入れなど各チーム結束に大いに役立ったようです。

昼食後は、野外炊事コーナーでキャンパー全員が参加しての、カレーライスを準備しました。男女混合での、まき割り、野菜の下準備、まき火付け、調理そして全員で配膳と各自持ち味を生かしてのホテルよりおいしいカレーライスができあがりました。このとき、最年少の中学生の男性キャンパーが料理と配膳でリー

ダーシップをとり、皆を驚かせましたし、彼はこのキャンプを通して大きく成長（それと変化）した代表となりました。同時に、かまどの火を利用しての焼き板を全員で作り、食後は各自のお土産として焼き板へのクラフトの時間をもちました。

この、昼食時間になんと、大阪西ワイズメンズクラブの井上公男メンがお盆休みにも関わらずキャンプを表敬訪問してくださり、その上賛助金までいただきました。このことは、本当にワイズダム精神を学んだ瞬間でしたし、我がクラブの面々に大きな力添えとなりました。本当に感謝です！

夕食後は、全員輪になってのキャンプファイアーです。その時には、男性と女性グループがそれぞれスタンツ（寸劇）を披露する課題があらかじめ与えられました。与えられた課題は、「仲間」と「夏の思い出」の択一ですが、両グループとも「仲間」を選びました。そして、自由時間にはそれぞれ練習と脚本に余念がありません。

いよいよ、キャンプファイアーの時間です。静かにしかも厳かにファイアーの最上段まで両脇のろうそくの案内で全員輪になって座ります。そして、男女の代表が点火式を執り行います。誕生日順に座りなおして、いくつかのゲームをしました。

いよいよ、寸劇の順番が来ました。まず、男性グループですが、ストーリーは「皆にずっといじめられている男の子がいますが、アメリカからきたナイスガイのニコラス君が英語とジェスチャーで一人ひとりを説得するのに成功します。そしてみんなでダンスをし、ボール遊びをします。その時ニコラス君が足をいためますが、全員がかれを担いで仲良く退場。」

女性グループは、「桃太郎を題材に皆でとらわれの姫を救いに、鬼退治に力を合わせて行き何とか姫を救うのに成功します。そして姫を鬼が島から連れ出そうとする瞬間、姫が行かないというのです。その心は、姫が鬼に恋をしたからでした。そして、皆仕方なく鬼と仲良くなったのです。」と、まあこのような筋書きですが、男性グループはなんとニコラス君がほとんどのストーリーのアイデアを出したのです。

次に、東北大震災の被災地から参加しました、お二人の男女（兄妹）の手紙を朗読する時間となりました。震災と津波の恐ろしさのなかにも、悲観することなく前向きに歩んでいる故郷の人々と、故郷をこよなく愛しておりそのためにも、希望をもって進むとの力強いメッセージを交互に朗読されました。

その後、昨日につづき多目的室に全員が集まり、田尻連絡主事の司会のもと聴覚障がいの聾者としての社会生活での不便などを具体的に話しあいました。特に、皆が通学時に利用する駅での案内で、特に緊急の事故発生時には何の絵文字もなく、アナウンスのみでの放送なのでまったく何が起こったかわからず、大変不安になるとの事でした。このことは、機会があれば鉄道関係者に伝えなければと感じました。

また、私からは両腕が無く、片足が半分に萎縮したままで生まれ、後にソウルパラリンピックに水泳選手で出場したスエーデンのゴスペルシンガー、レーナ・マリアを紹介しました。神様は、皆全員にそれぞれのタラント（才能）を与えておられ、皆にご自分のタラントを早く見つけてほしいと述べた次第です。

最後の日は、女性グループによる体操指導から始まり（昨日より楽でした）朝食後に研修室でキャンプビデオの鑑賞をし感想文を書きました。昼食時には、大阪クラブのメンバーでもあります、大阪Yの末岡総主事も合流しました。この日は、HHキャンパーと入れ替えに、東北の被災地から25人の発達障がい者のキャンプが始まる日のことでした。これも、一連の東日本大震災復興支援のプログラムの一環とのことでした。

そして、皆で記念写真を撮り西川所長、末岡総主事やスタッフから見送られながら帰路につきました。伊丹空港で宮城県の二人と神戸の学生を見送り無事事故も無く全員土佐堀Yに到着いたしました。

来年は、香港マカオで2年に一度の国際HHキャンプが開催されます。参加資格は高校以上ですが、女性グループの4名全員はぜひとも行きたいとの意思表示でしたし、男性では宮城から来たキャンパーが参加の意思をもっていました。

今回、初めてのHH国内キャンプでしたが、たとえ7名の学生といえどもノーマライゼーションの一環と

して、普通高に通う聾の学生がいかに孤独であるか、またこのようなHHキャンプで会った同じ境遇の友を通して初めて、自己の障がいを受容できた子供が大半でした。そして、そのことが彼らに生きる目標と希望を与えることを確信いたしました。

2013年、再来年の国内HHキャンプからは、今回のキャンプリーダーを立派に務めてくださったOB OGの皆様と、終始全てを手話通訳していただいた伊田様、そして條メンのご奉仕の継続をお願いしながら、大阪YMCAとの恒久的な協働事業として成長していくことを祈ってやみません。

最後に、私個人としましてはじめてのキャンプで、習いたての下手な手話でもHHキャンパー全員の心に触れることができたことは、人生において大いなる収穫でした。キャンパーの学生と支えていただいた全てのかたがたに感謝いたします。

【聴覚障がい青少年キャンプ（HH国内キャンプ）報告】 田尻 忠邦

2011年8月13日（土）から15日（月）の日程で、六甲山YMCAで開催された聴覚障がい青少年キャンプは、いろんな意味で意義深いイベントとなりました。具体的な内容については、大阪ワイズメンズクラブを代表してキャンプの最初から最後まで、全日程ご参加いただいた牟会長と條先生の報告に詳しいのでお任せするとして、私からは、実務サイドの観点から、いかに意義深かったのかについて具体的に述べていただきます。

- 1) 昨年8月26日から本年7月11日まで、全7回におよぶ拡大聴覚障がい青少年育成基金委員会(以降：拡大基金委員会)を持ち、そこにほぼ毎回、核となるHH国際キャンプOB,OGが6名前後参加してくれたこと。
- 2) 拡大基金委員会において、HH国際キャンプの必要性について検証し、現在抱えている問題点を抽出して、解決策、対応策について討議したこと。
- 3) HH国際キャンプの広報と底辺拡大の目的を持ち、さらにはHH国際キャンプOB,OGのリーダー養成を目指し、プレキャンプとしてのHH国内キャンプの実施を決定したこと。
- 4) 大阪センテニアルワイズメンズクラブの新保前会長(元大阪府立生野聾学校校長)にご同行いただき、大阪府下4校の聴覚支援学校に大阪ワイズメンズクラブ脇本前会長と大阪YMCAのスタッフが、協働で広報依頼の訪問をしたこと。
- 5) HH国内キャンプが大阪YMCAの東日本震災復興支援プログラムと一つとされたこと。
それにより、統括本部スタッフ立山英展氏が、キャンプディレクターに、田尻が、プログラムディレクターに任命されたこと。また、広報対象が岩手、福島、宮城、千葉、茨城の聴覚支援学校に拡大され、結果として仙台より2名の参加者を得たこと。
- 6) 日本YMCA同盟を通じ、三菱商事のフレンドシップキャンプに加えられ、震災被災地からの参加者にかかる費用の助成が受けられるようになったこと。
- 7) 6名のHHキャンプOB,OGが、研修を受け、リーダーとして参加してくれたこと。
- 8) HH国内キャンプ実施前に1泊2日のプレキャンプを実施し、5名のOB,OGが参加してくれたこと。
- 9) 伊田洋子氏の協力により、手話通訳者が二人体制になったこと。
- 10) HH国内キャンプに大阪ワイズメンズクラブから牟会長、脇本メン、北村メン、脇本メネット、そして大阪クラブのIBCであるパサディナワイズメンズクラブからの交換留学生ニコラス・ヘルド君に参加していただいたこと。

これらの項目の相乗効果により、今回のHH国内キャンプは大きな成果をあげることができました。

【HH国内キャンプを終えて】

條 イサヨ

8月13日から15日まで六甲山YMCAで行われた国内HHキャンプが無事成功裡に終わってほっとしています。大阪ワイズの7回に及ぶ拡大基金委員会に毎回参加してくれたHHキャンプOBORGが国内キャンプのリーダーとして参加してくれたことが、今回のキャンプが成功した一因だと思っています

7月25日にYMCAの立山さんから、リーダー研修としてキャンプ等についての講義を受け、7月30、31日に六甲山YMCAでチームビルディングキャンプを実施して、本番のプログラム内容を検討しました。オリエンテリングを実際に行ってみてそれぞれの場所に合うゲームとルールなどを決定。例えば、場所が狭くて動き回るのが難しい所ではなぞなぞを、グリーンチャペルではジェスチャーを。広い所ではフリスビーやバトミントンのシャトルを打ってかごに入れるゲーム。池ではカヌーなど。

ゲームについて話し合う中で、立山さんからグループワークの大切さが強調され、リーダー達もルールを考えるときなどにグループワークの視点がだんだん持てるようになってきました。この現地でゲーム等を実際に行ってみて決めていったことが、リーダー達が何をしたらいいのかわかり、キャンパーがそれぞれのゲームを楽しめたことにつながったと思います。

8月12日に仙台からのキャンパーを空港で出迎えた田尻さんと肥後橋駅で合流し、大きな荷物をホテルに預けて大阪見物に行きました。まずYMCAの場所を確認し、昼食後大阪ステーションシティから大阪城へ。天守閣まで上り、心斎橋から戎橋へ。グリコの看板などを見て難波で夕食を済ませ、ホテルへ。夕食のとき家政さんから震災の様子を話してもらいました。携帯電話に保存した写真も見せてくれた。

13日8時半にYMCA会館前に集合。パサディナからの交換留学生ニコラスさんも合流し、バスで防災センターに向かいました。途中バスの中で各自自己紹介。防災センターではこれでもかと阪神大震災の状況が映像で写し出された。現在の状態も含め復興していった過程も写されたら良かったのに・・・。

六甲山YMCAに到着後、部屋割、昼食を済ませて、午後のプログラムに。オリエンテリングの最初のカヌーの所で新聞の取材を受けました。池を2周しただけでしたが、みんな楽しんだようでした。このポイントだけスタッフの応援が必要なので、最初に探してもらい、他のポイントだけ男女別に自由にグループ活動にしました。ニコラスさんも男子グループに入って行動してもらいました。言葉を必要とするものは、なぞなぞとジェスチャーくらいだったので、だいたい楽しんでもらえたと思います。

夜の全体ディスカッションは時間の関係でキャンプ参加動機と目標の発表でほとんど終わってしまいました。

14日は日曜日でもあり、朝の集いで田尻さんのお祈りのスピーチをし、男子担当の体操をしました。

朝食後のグループワークでは新聞紙をできるだけ長くなるようにちぎるゲームや、新聞紙を手でもたずに走り、新聞をバトン代わりにリレーするゲーム、バットを額に当てて7回まわり、走って行って水入り風船を投げて次の人にキャッチしてもらいます。ピンポン玉リレーや空き缶タワー、ウォーターパイプなどゲームはみんなが力を合わせてするものでした。

初日はヘッドホンをして音楽を聞き、グループから距離を置きがちだったキャンパーの1人も、リーダーや仲間の根気強い働きかけとゲームが楽しかったこともあったのか、だんだん仲間入りできてきました。そして昼のカレー作りで大活躍し、みんなからほめられたこともあり、自分からグループに入っていくようになりました。

午後はクラフトで焼き板に絵や字を書いて記念品を作りました。

夜はキャンプファイヤーのまわりで、グループごとにスタンツ発表やゲームを楽しみました。

15日は朝の集いを女子が担当、ラジオ体操をして終わりました。朝食後、片付けをして荷物を移動、2日間のスライドを觀賞して振り返りシートを記入し、HH国際キャンプの紹介をしてプログラムを終了しました。昼食後記念撮影をして六甲山YMCAを離れました。伊丹空港で仙台からと神戸からの参加者を見送

り、土佐堀で無事解散しました。

キャンプ中の話しなどから仙台からの家政理菜さんは、来年のHHキャンプに参加したいと言っていましたし、他の女子キャンパーも同じように言っていました。辻君は初めはお父さんに無理に参加させられたと言っていましたけれども、キャンプが終了するころには次回の国内キャンプに参加すると積極的な姿勢に変わっていました。

キャンプの成果については、参加された他のワイズメンズメンが目にしておられるので、報告があると思います。

通訳の面では、伊田さんにかなりな部分をしていただき、とても助かりました。

最後に企画、支援して下さった大阪Y M C Aや同盟、大阪ワイズメンズクラブのひとつひとに感謝してペンを置きます。今後もよろしくお願いします。

【パサデナ交換留学生来訪記】

会長 牟 大盛

I B C 締結以来、40年来以上継続している、I B C パサデナクラブとの Home Stay Exchange Program の一環として、昨年の大阪クラブからの田尻悠紀コメットのホームステイにつづき、今年は8月8日から19日までパサデナから、大学2年生の Nicholas Held 君を招いてのホームステイの実施となりました。

当初は、クラブ会員のご子弟のコメットから、昨今は甥や姪、または孫に至る広範囲の交換ホームステイ実施となっています。この準備のため尽力して下さった、北村知三I B C 委員や、ホームステイ先として受け入れて下さった、田尻家、脇本家の皆様に心から感謝する次第です。

毎年相互に約10日間ほどの交換ホームステイを実施していますが、昨年はパサデナクラブのJeff 会長も横浜世界大会の帰りにクラブ例会にご夫婦で参加して下さり、大阪クラブと親睦をより篤くしたばかりでした。このたびの来訪者N i c k 君は、そのJeff 会長の甥にあたりより親しみが増している次第です。特に、N i c k 君の滞在期間中に大阪クラブが初めて実施しました、国内聴覚障がい(HH)キャンプ(場所:六甲山Y M C A)にも参加していただき、また積極的に聾のキャンパーのみんなと親しく交流してくれました。これにより、国内キャンパーの心が一挙に国際化も同時に受け入れるきっかけとなり、おかげで、来年の香港マカオでのHH国際キャンプにおおきく弾みがつきました。

18日は、第2例会と送別会をかねた食事を「徐園」でもちました。別途各ご家庭でのホーステイ記をブリテンに掲載していただきたく思います。来年は、大阪クラブのコメットから一人を選出して送ります。日本の学生が国際化から遠ざかる懸念がある昨今ですが、少しでも国際的感覚と人類愛を実践できる人材を今後とも、パサデナクラブと共に育成したく思います。

また、ニコラス君自身、大阪クラブでの滞在感想文を残してくれました。これは、大阪クラブのある種I B C 活動の実りであり、宝物といえましょう。

ニコラス君は、我が家に17・18日そして、帰る19日まで家族として過ごしました。南港A T C , 大阪市立美術館、天王寺動物園、京都半日観光、京都駅と梅田周辺観光に行きました。

ニコラス君は、観光もしかることながら、出会う人々が大変ユニークで面白く、また人間味に溢れており、事前の日本のイメージと180度違うことに驚きと喜びを持っていたようです。勿論、そのなかに小生もはいますが・・・。

彼の訪問を心から感謝したく思います

【Nicholas君の皆様への感謝の手紙】

大阪クラブ会員の皆様へ

ご苦労様です。今、私の家でニコラス君が大阪クラブの皆様へ感謝と思い出の手紙を残します。

本当にすばらしい青年です。この手紙を大阪クラブの宝といたく存じます。(8月19日 牟大盛)

Dear Osaka Y's Men's Club and gracious hosts,

You asked me to write what I learned and experienced in Japan..well it's easy, don't let Tajiri San bring you to a community bath because you will bring in your key, the wrong towel, and cause attention. Do not go out to dinner with Wakimoto San and agree to having one beer...you will leave drunk. Do not ask how much further it is to Mo San house...he will tell you `oh it's just a six iron away` or `only five more minutes`,... 20 minutes later you will still be walking.

In all seriousness though, I learned a lot more than I could have ever imagined and did so many things with many wonderful people. When I first got off the flight from Osaka I was greeted by four men and a young lady who hadn't spoken English in quite some time, and no offense, it showed. However, it didn't matter how hard it was to communicate that first night because the sincerity and graciousness was there. Those first ten minutes were what set my attitude for the rest of the trip. I figured if a bunch of old men were willing to try and say the wrongs things just to be friendly and accepting, then I was going to do everything to return the favor.

I had a lot of fun and enjoyed every minute of this trip. The first day I went to Nara with Yuki and Mrs. Tajiri and really got my first taste of the Japanese lifestyle...taking a train and walking a lot. Later that night at the welcoming party I learned to be patient and not everything gets translated right from English to Japanese when Kitamura San asked me to sing in front of everybody. While at my stay with the Tajiri family I also experienced things like going to the sea and having a Japanese barbeque, more sightseeing including Mt Koya, Yuasa Castle, and some of the downtown Osaka night life. I also experienced my first Japanese bath and more food where every time I had to ask, `Sumimasen what is this?` While staying with the Wakimoto family I had the Japanese Sake, and explored the Osaka Bay area and Osaka Castle. When I stayed with Mo San I saw the ancient city of Kyoto, Osaka Zoo and museum, and the Kyoto and Osaka train station/ shopping department stores. These were just some of the main big things I remember. This would be a ten page paper if I wrote down everything I did, ate and saw.

At the HH Camp was where I learned the most. I didn't think I was going to be able to participate or let alone communicate with any of the kids who had a hearing disability. Much to my surprise even though it was really challenging it was fun and came almost natural. Those kids have more courage and determination than some of the average college kids of America. I learned that through hard work, patience, and a little humor you can break the toughest of barriers and become friends with a total stranger of a different race, different language, and different physical ability. God made everybody different for a reason but he gave everyone a heart. That, I think, is what some people forget today.

Anyways I would like to thank everyone for how they treated me and accepted me into their homes. Thank you to the three wives for taking care of me, cooking doing laundry, and speaking English. Thank you to all the Y's Men of Osaka especially Tajiri San, Wakimoto San, and Mo San. Thank you Yuki Tajiri, and remember you are better at English than you think! Thank you Ken Wakimoto for everything and don't forget you are good looking! Last but not least, Thank you Hiroki Tajiri, you the man! I have so many

more questions I never got to ask. Explore the World! Thank You all I had a wonderful time and it is a trip I will never forget!

Kimi metcha kawaee

Best Regards,

Nicholas Edward Held

Heldx094@d.umn.edu

612-581-9851

【パサデナクラブ交換留学生実施報告】

I B C 委員 北村 知三

今年の Pasadena club からの留学生受け入れについては、主に Jeff Brandeen 会長との間でやりとりをしました。こちらの短い文章での問い合わせに対し、Mr.Brandeen は、いつも丁寧な文章でメールを送ってくれて、昨夏の横浜での初顔合わせや、クラブの納涼例会への招待のときの様子が目に浮かび、彼の人柄がにじみ出ていました。こちらは返事の英作文にいつも時間がかかり、ときにわが息子の手を借りて何とか対応できました。順調に話が進み Nicholas Held とする留学生が決まりプロフィールも送られてきました。日程が HH キャンプと同じこととなり、役員会で日程調整の話をする、と、條さんから「その留学生にも HH キャンプに参加してもらえばよい」という案が出てみんな賛成し、今回の2つの事業が合成された成果の発端となりました。

Nicholas 君は、Brandeen 会長の甥で、California から遠く Minesota 州に住んでいますが、日本へ来るのはもちろん、海外旅行も初めてとのことでした。彼にとっては、日本人と深く接するのも、そもそも日本の社会に接するのも初めてで、まさに "Close Encounter" だったでしょう。しかし彼は、われわれが立てたスケジュールの中で、その役割に素直に適応し、むしろそのときどきの体験を楽しんでいたようにも思われました。Nicholas 君滞在中の様子は各ホームステイのメンバーから、プリテンに詳しく報告されることでしょう。

ホームステイの牟会長、脇本さん、田尻さんの各ファミリーが気持ちのこもったお世話をしていただき、本当にありがとうございました。これまで Pasadena club との I B C に関わってこられた過去のメンバーの方々、そして皆様の絶大なご奉仕の賜物と思っています。またわれわれにとっても、今後どんな「未知との出会い」が出てくるのか楽しみとなりました。

好青年の Nicholas 君は彼へのファンをたくさん日本に残して、19日に日本をあとにしました。

パサデナクラブの Brandeen 会長からお礼の手紙が来ました。

本当にこれからのパサディナとの交流も楽しみです。

Hello Tom;

Just to let you know that Nick-san arrived safely back home. I was able to spend a couple of days with him before he went back to his home town to begin his next year at his University. We want to thank you and the other members of the Osaka Y s Men s Club for hosting Nick-san as well as planning several activities around his stay in Osaka. He told me he enjoyed every activity as well as meeting everyone from your club. He said he even enjoyed sumo wrestling with Moh-san during the camping weekend. He also said it was one of the best experiences of his life and will not forget the many friends he met during his trip. Nick-san and the Pasadena Y s Men s Club want to thank you and the other members of the Osaka Club for being great hosts. We appreciate the relationships that our

clubs have established during the many years of the student exchange program. We look forward to continuing the program next year. We wish all the best of luck and good health in the coming year.
Best Regards,
Jeff

【パサデナクラブ交換留学生のホストファミリー報告】 田尻 須賀子

* ニックと共に過ごした素敵な夏休み *

大学生となった娘が、祖母の家から通学するようになって、早いものでもう2年目になります。なかなか家族全員と一緒に過ごす時間がとれない私たちにとって、今年は、ニックのおかげで本当に久しぶりに家族が集まれる貴重で素敵な夏休みとなりました。この度のニックのホストファミリーとしての受け入れは、彼が来日する数ヶ月も前から彼の滞在予定に合わせての家族間の携帯メールのやり取りから始まりました。

初めての海外旅行で日本に来る留学生、「何処へ連れてあげよう、何をを見せてあげよう、時間がなくてもこれだけは。」と予定はどんどん増えて、家族と考えるだけでもどれ程楽しかった事でしょう。まだ一度も会った事のないニックの事を想像しながら、日程が詰まり色々なアイデアでいっぱいになりました。観光の担当を決めて、最終の家族会議をしながら、彼の来日が心から楽しみでした。

そうして、待ちに待ったニック君との対面。異国の旅が初めてとは思えない、とても落ち着いた、穏やかで、気がつく、優しい、笑顔いっぱいのニックは、日本語が喋れなくても、どうにかして溶け込もうとする気持ちが、心から伝わってきました。いつの間にか自然に我々に溶け込み、子どもたちと兄妹のようにはしゃいでいたのには感心しました。

事前に作ったプラン通りに、奈良や高野山は忙しいスケジュールの中、一緒に歩き回り、本当に楽しい時間をニック君と共に過ごせました。中でも日本の自然を見せてあげたくて、特に有名ではないのですが、山と海に囲まれた和歌山県湯浅の海岸でのパーベキューと、その日に宿泊した国民宿舎、湯浅城は、子ども達の提案でした。「お城に泊まると、きっと喜ぶよ。」との提案に共感しての宿泊。予想通りにヒットだったようです。楽しい数日間は、あっという間に過ぎました。

月日の過ぎるのは早いものです。長男の大樹が、2008年にパサディナに訪問させていただき、そして引き続き長女の悠紀までも昨年、交換留学生として参加させていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。共通の話題を持つ2人は、今でも折にふれ、思い出話に花を咲かしています。多くの日米ワイズメンズクラブのメンバーの方々に大変お世話になり、心からの感謝の気持ちで一杯です。今回のニック君の来日で、両クラブの交流が長年に渡り、若い世代に繋がっている事は、本当に素晴らしい事だと痛感致します。大阪ワイズの素晴らしい活動を通してニック君に出逢え、ホームステイをさせていただき、素晴らしい夏の思い出を残せました事、家族一同、心から感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

【パサデナクラブ交換留学生のホストファミリー報告】 脇本 博

パサデナクラブからの夏期交換留学生であるニコラス・ヘルド君は8月8日に来日され、田尻メンにお世話になりました。8月9日は大阪クラブの納涼パーティーに田尻ファミリーと共に出席され、今回の訪日をとても楽しみにしていた旨挨拶されました。13日から六甲の国際キャンプにボランティアとして参加しました。私達夫婦も13日、午後から14日夜まで、参加させて頂きニコラス君のボランティア活動をまのあたりにしました。彼は人柄が優しく、明朗快活でキャンパー達にすぐに溶け込み皆と親しく活動をともしていました。彼のお陰でキャンパー達の英語学習意欲が湧いてきたようでした。彼の存在がHHキャンプにどれだけ華を添え、どれだけキャンパー達を楽しませて呉れたか知れません。本当によくやってくれました。

私達は14日夜六甲Y M C Aをあとにしました。翌日午後4時キャンプからの観光バスが帰ってきます。ニコラス君のお世話は14日から私の担当となりますので、大阪Y M C Aまで彼を迎えに行きました。キャンパー達にとって彼とのお別れは、お名残り惜しそうです。

Yの隣のスーパーのライフを見学し、夕食は日本独特のしゃぶしゃぶとお造りとしました。三男の謙が色々説明し、話しが弾みました。彼のお母さんはパサデナのジェフの従妹さんだそうです。アルコールも結構いけて日本酒を始めてトライしました。気にいったようです。夕食後、息子とパチンコ見学。負けたそうです。翌日は、謙と同世代の女性二人と、計4名で大阪城観光、午後は海遊館、大阪湾クルージングを楽しみました。前夜の話では、今まで海を見たのは、フロリダで一回きりだったそうです。今回は水族館に大変興味を示したそうです。夜は若い人同士で、日本独特のちゃんこ鍋を楽しみ、娘さん達と話しが弾み、10時頃の帰宅となりました。翌朝、11時に牟大盛会長にひきつぎました。

短い期間でしたが、ニコラス君との交流は大変気持ちがよく、彼が去る時は寂しい思いがしました。今まで、マイケル、ケビン、ミッチ、もう一人名前は失念しましたが、今回のニックは大変良い印象を与えて呉れました。彼の人柄に負うところも大きいでしょうが、六甲で共にボランティア活動をしたことが、共通の財産となり、互いの気心が知れて良い交流が出来たのが一因かも知れません。私達もキャンプ生活や彼のホームステイを通じて、爽やかな良い経験をしました。18日の徐園の送別会の後、彼の前途のご多幸を祈念して万歳三唱してお別れしました。翌日牟大盛会長が関空まで見送ってくださいました。

【EMCシンポジウム報告】

会長 牟 大盛

8月20日(土)午後2時から土佐堀Y M C A 102号室で、中西部石津EMC事業主査の司会のもと、来賓として大岩英人西日本区事業主任と今年5月に岩国みなにクラブをチャーターされた2000推進チームの高瀬稔彦委員長がこられました。

清水誠治郎中西部部長による開会点鐘、ワイズソングのあと松浦孝次直前部長による開会のお祈りで開催しました。

まず、清水部長により、「今期、中西部11クラブは会員166名でスタートしましたが、クラブ毎の特長を生かしなんとか200名以上を目標にEMC運動を展開していただきたい。」とのご挨拶でした。

つづいて、大岩EMC事業主任からは、京都グローバルクラブに25歳で加入し、18名を勧誘し現在15名がメンバーとして残っておられ、入会後の育成は誘った会員でなくその他の会員の責任でもあるとの挨拶で始まりました。

今期方針は「一人のへんしん、みんなでへんしん、ワイズがへんしん」で、EMCはメンバーの意識のへんしん(変進、変新)により初めて可能であると強調され、大岩主任の「私のメンバーの誘い方」の13か条をご披露くださいました。これは、具体的でもあり大変参考になりました。

次に、高瀬2000推進チーム委員長の挨拶です。なによりも、今年5月に岩国みなみクラブをチャーターした経緯を詳しく述べられました。そして、会員の思いをひとつとし、ひとつの事業を目標に一丸となる時は常にクラブは活性化するとのお話でした。

その後、15分間は、EMCをテーマにグループ討論をし、その後15分はクラブの未来について考える時間を与えられました。これは、9月の中西部会で「5年後のクラブ像」の発表の準備をする機会となりました。

なによりも、魅力ある事業の展開がEMCの原点であると再確認するきっかけとなった、EMCシンポジウムでした。

【Y M C A ニュース】

第221回 大阪Y M C A 早天祈祷会

Y M C A を愛する人々と一緒に祈る時(第3金曜日)を持っています。Y M C A の様々な場所で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

日 時：9月16日(金) 7:30~8:30

証 し：海老原 道宣牧師(日本基督教団大阪福島教会)

場 所：大阪Y M C A 会館

問合せ：大阪Y M C A 国際・社会奉仕室 Tel:06-6441-0894

大阪Y M C A 第17回チャリティーラン2011

日 時：10月10日(祝・月) 9:00~13:00

場 所：大阪城公園

主 催：大阪Y M C A、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区、日本 Y M C A 国際賛助会

土佐堀Y M C A 第9回とさぼりカーニバル

日 時：11月3日(祝・木) 10:00~15:00

場 所：大阪Y M C A 会館

【今後の行事予定】

今後の行事は、次のとおりです。積極的な参加をお願いします。

1. Y Y フォーラム・・・9月3日(土) 午後2時~午後4時 大阪Y M C A 会館 302号室
2. 京都部会・・・9月11日(日) 福知山市三段池公園体育館
3. 中西部部会・・・9月17日(土) 13:00~18:00 ホテルクライトン新大阪
合同メネット会 10:30~12:00
4. 阪和部会・・・9月23日(金・祝) 大阪南Y M C A
5. Y M C A 阿南国際海洋センターワークキャンプ・・・9月23日(金・祝)~24日
6. 西中国部会・・・10月1日(土) 広島Y M C A
7. 九州部会・・・10月2日(日) 霧島ホテル
8. 六甲部会・・・10月8日(土) 神戸Y M C A
9. 瀬戸山陰部会・・・10月15日(土) 日本キリスト教団 岡山教会
10. びわこ部会・・・10月16日(日) クサツエストピアホテル

参加希望者は、脇本書記宛(090-9286-0108 fax 06-6761-9713) ご連絡ください。

【CSより】

献品は下記住所をお願いします。

「釜ヶ崎いこいの家」 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋2-5-23 : (06) 6631-2169

【編集後記】

残暑お見舞い申し上げます。夏の酷暑を乗り切ったところに、最高気温34~35度と聞くとゲンナリしてしまいます。夏は、HH国内キャンプに、パサデナからの交換留学生のホームステイと行事が重なり、お疲れ様でした。私は何の活動にも参加できずに、忸怩たる思いです。各行事が成功したのも、ワイズスピリッツ溢れるメンバーの奉仕の賜物です。深く感謝致します。今月は、メネット月間です。メネットはクラブの宝です。(編集委員：松原伸幸)